

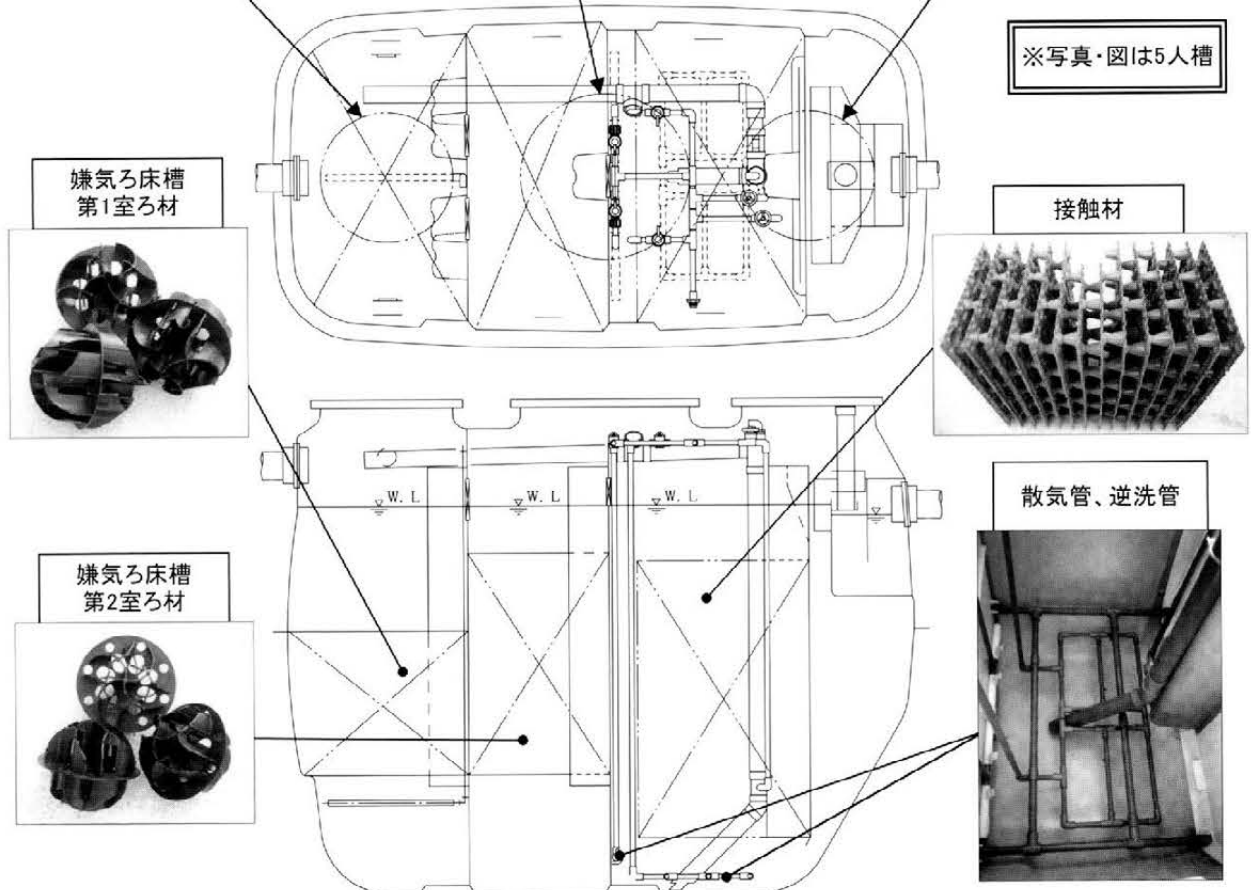
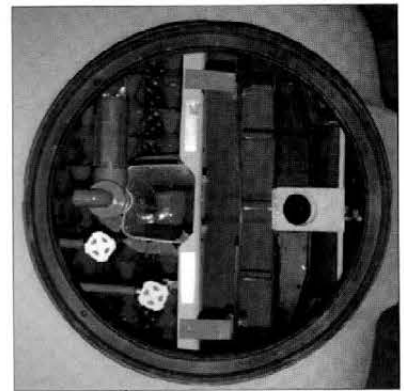
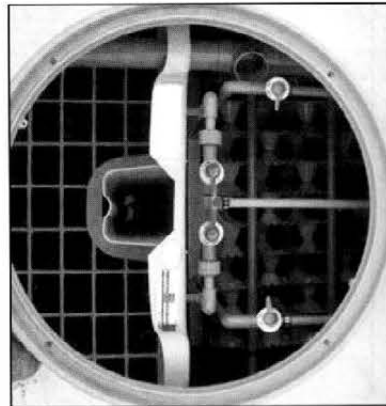
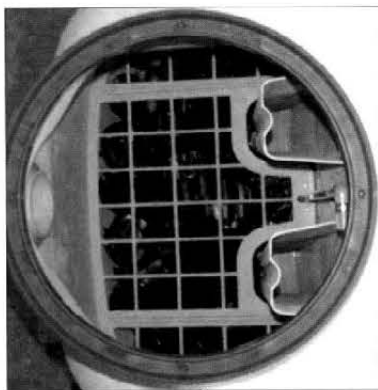
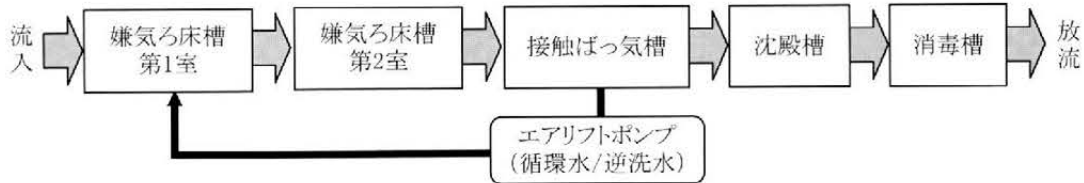
フジクリーン工業株式会社 LP
BOD除去型

(全浄協登録値:BOD;20mg/L)

本社住所	〒464-8613 愛知県名古屋市千種区今池四丁目1-4	TEL 052-733-0325	FAX 052-733-0238
担当部署名	第一営業部		
担当部署の住所	〒464-8613 愛知県名古屋市千種区今池四丁目1-4	TEL 052-733-0326	FAX 052-733-0238
人槽(型式認定番号)	5(5-09K-1E-001), 7(5-09K-1E-001-1), 10(5-09K-1E-001-2)		
登録期間	1993年2月22日～2016年2月21日	全浄協登録番号	0031204

フローシートおよび構造概要

〈嫌気ろ床接触ばっ気方式〉



主な特徴

●構造・機能

- 嫌気ろ床槽**:第1室,第2室とも下向流である。各室に大きさの異なる骨格様球状ろ材(第1室;φ150mm,第2室;φ110mm)が充填されている。第1室にはろ材受けの下に逆洗送気管が設置されており,ろ材の洗浄が可能となっている。ここからの送気によって,ろ材の閉塞が解消され,清掃時の汚泥の引き出しが容易となる。
- 接触ばっ気槽**:槽内には板状接触材が充填され,嫌気ろ床槽側の隔壁に設置された2本のT字型散気管で側面ばっ気されることにより,BOD除去が進行する。また,逆洗水移送用のエアリフトポンプの取水口は槽底部の中央付近に位置している。一方,汚泥引き出し管は沈殿槽側の隔壁に設置されている。

●工事

- ブロワ配管**:ブロワは1台,槽本体の送気口は1箇所である。
- 試運転**:槽内水位,空気配管バルブの状態,接触ばっ気槽のばっ気・逆洗の状態,越流ぜきからの移流状況等について試運転調整を行う。

●保守点検および清掃

- 槽内水位**:各単位装置の水位の異常な上昇およびその形跡を点検する。異常が認められる場合は閉塞箇所を特定し,解消する。

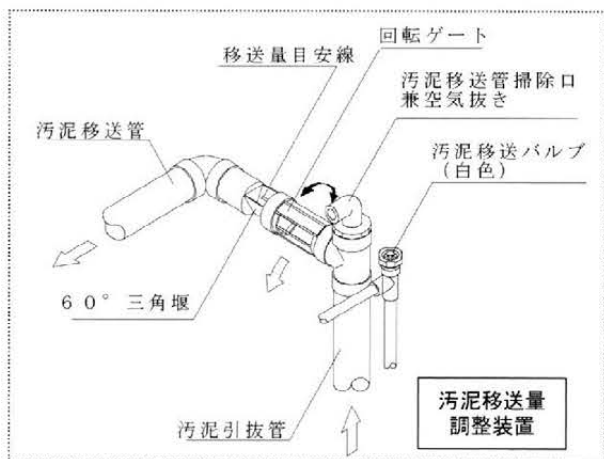
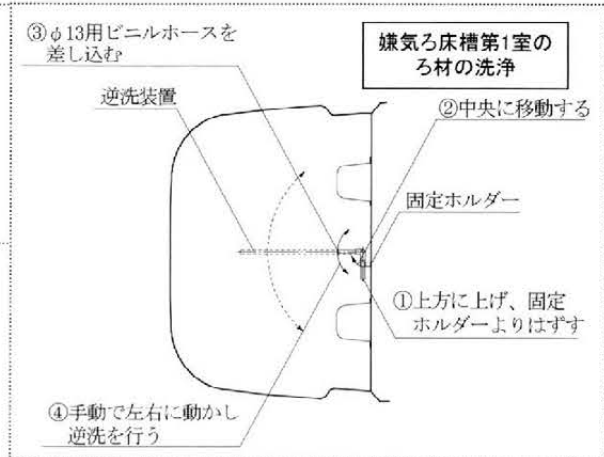
- 嫌気ろ床槽**:流出水の性状を点検する。スカム厚,堆積汚泥厚,ろ材内の汚泥の蓄積状況等から処理機能および清掃時期を判断する。第1室においてろ材の閉塞が認められた場合は,逆洗送気管を固定ホルダーから外し,上端をφ13ホースで繋いでブロワの空気を送り込み,逆洗送気管を左右に動かしてろ材を洗浄する(上図参照)。

- 接触ばっ気槽**:槽内水の性状およびばっ気・攪拌の状況を点検する。左右のばっ気に片寄りが見られる場合は,散気バルブ(青)を操作し,均等な水流が得られるよう調整する。バルブ操作のみでは調整が困難な場合,散気管を取り外して洗浄する。生物膜の肥厚化,槽内水のSS増大等が確認された場合,手動逆洗を行う。

- 手動逆洗**:まず,片側の逆洗バルブ(赤)を開き,他のバルブを全て閉じる。片側ずつ5分間程度(汚泥の剥離の程度により時間を調整)逆洗を行い,剥離汚泥の状況を確認した後,30分程度ブロワを停止して汚泥を沈降させる。続いて,汚泥移送バルブ(白)のみを開いてブロワを稼働させ,汚泥の移送を行う。この際,汚泥移送量調整装置の回転ゲートは全閉とする(上図参照)。汚泥移送が完了した後,ばっ気状況等が適正となるように再調整する。

- 沈殿槽**:処理水の越流状況,流出水の性状,スカムおよび堆積汚泥の状況を点検する。汚泥は柄杓や自吸式ポンプ等で嫌気ろ床槽第1室へ移送する。

- 清掃**:汚泥の引き出しは嫌気ろ床槽第1室が全量,第2室については適正量とする。その他の単位装置は必要に応じて実施する。LP型の各単位装置の有効容量および槽底部からろ材受け面までの距離を右表に示す。



	LP-5	LP-7	LP-10
有効容量(m ³)			
嫌気ろ床槽第1室	0.796	1.439	2.074
嫌気ろ床槽第2室	0.709	0.871	1.466
接触ばっ気槽	1.006	1.415	2.025
沈殿槽	0.310	0.467	0.735
消毒槽	0.019	0.019	0.027
合計	2.840	4.211	6.327
槽底部からろ材受け面までの距離(mm)			
嫌気ろ床槽第1室		430	
嫌気ろ床槽第2室		430	